

# 2021年度 第2四半期 決算説明会

2021年11月8日

**ブラザー工業株式会社**

**常務執行役員財務担当 伊藤 敏宏**

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おください。

## 2021年度 第2四半期（7月-9月）実績

為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業が好調に推移し、売上は増収  
事業セグメント利益は、第2四半期としては、過去最高水準

## ◆ 売上収益 1,765億円/ +12.5%（前年比）

- ✓ P&S事業は、供給制約があるものの、在宅勤務向けの製品本体への需要の強さ、消耗品の堅調な推移に為替のプラス影響も加わり増収
- ✓ マシナリー事業は、主に中国向けの産業機器の好調な推移、工業用マシンでのアパレル向け設備投資需要の回復などにより大幅増収

## ◆ 事業セグメント利益 232億円/ ▲0.6%（前年比）

- ✓ マシナリー事業・P&S事業における粗利増や為替のプラス効果があったものの、物流コストや部材コストアップにより前年度並みの水準となる

## 2021年度 通期業績予想

為替のプラス影響に加え、主に第2四半期における  
P&S事業の利益の上振れを反映し、各段階利益の見通しを上方修正

## 2021年度 第2四半期決算

為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業が好調に推移し、増収となりました。  
事業セグメント利益は、第2四半期の決算としてはIFRS移行後で過去最高となった前年同期と並ぶ水準となりました。

売上収益は、前年同期比 12.5%増の**1,765** 億円となりました。

P&S事業は、工場の稼働率低下による供給制限がありましたが、在宅向けの需要の強さは継続し、ミックスの改善や価格対応の効果、消耗品の堅調な推移により増収となりました。

マシナリー事業は、主に産業機器の中国での自動車関連向けの好調さや、工業用マシンでのアパレル向け設備投資需要の回復などにより、大幅増収となりました。

事業セグメント利益は、**232**億円となりました。

物流コストや部材のコストアップがありましたが、マシナリー事業・P&S事業における粗利増や為替のプラス効果により、前年並みの高い水準となりました。

## 2021年度の通期業績予想

為替レートが想定よりも円安で推移したことによるプラス影響に加え、主に第2四半期でのP&S事業における利益の上振れを反映し、各段階利益の見通しを上方修正いたします。

## 2021年度 第2四半期（7月-9月）業績

為替のプラス影響に加え、主にマシナリー事業が好調に推移し、売上は増収  
事業セグメント利益は、第2四半期としては、過去最高水準

単位：億円

	20Q2	21Q2	増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率
売上収益	1,569	<b>1,765</b>	196	12.5% (+7.3%)
事業セグメント利益	234	<b>232</b>	-1	-0.6%
事業セグメント利益率	14.9%	<b>13.2%</b>		
その他の収益・費用	-1	<b>15</b>	16	
営業利益	233	<b>247</b>	15	6.3%
営業利益率	14.8%	<b>14.0%</b>		
税引前利益	232	<b>248</b>	17	7.2%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	181	<b>182</b>	1	0.6%
USD	105.88	<b>110.47</b>		
EUR	123.71	<b>130.31</b>		

それでは業績説明です。

2021年度の第2四半期における売上収益は、前年同期比 196億円増となる **1,765億円** となりました。  
事業セグメント利益は、前年と同水準の**232** 億円、営業利益は、15億円増の **247**億円となりました。

# 2021年度第2四半期 事業セグメント別実績

brother  
at your side

単位：億円

		20Q2	21Q2	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	950	1,061	111
	事業セグメント利益	189	159	-30
	営業利益	186	164	-22
パーソナル&ホーム	売上収益	144	134	-10
	事業セグメント利益	27	26	-1
	営業利益	26	28	2
マシナリー	売上収益	189	271	82
	事業セグメント利益	8	36	28
	営業利益	9	37	28
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	88	64	-25
	事業セグメント利益	-4	-12	-8
	営業利益	0	-5	-6
ドミノ	売上収益	173	204	31
	事業セグメント利益	16	22	6
	営業利益	12	22	10
その他	売上収益	24	31	7
	事業セグメント利益	-2	1	3
	営業利益	-1	3	4
合計	売上収益	1,569	1,765	196
	事業セグメント利益	234	232	-1
	営業利益	233	247	15

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

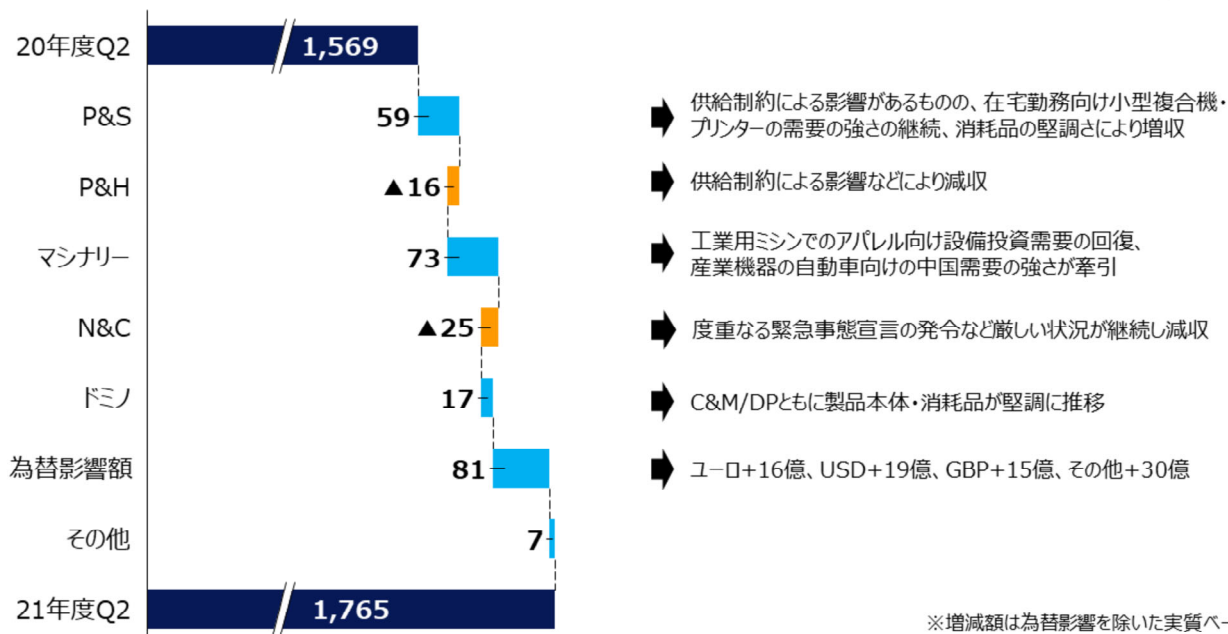
5

事業セグメントごとの業績の一覧です。

# 2021年度第2四半期 売上収益の増減要因

マシナリー事業・P&S事業が堅調に推移  
為替のプラス影響も加わり、増収となる

単位：億円



2021年度 第2四半期の売上収益の増減要因です。

## ・P&S

供給制約による販売への影響があるものの、在宅勤務向けの小型複合機・プリンターの需要の強さが継続したこと、ミックスの改善や価格対応の効果、消耗品の堅調な推移により増収となりました。

## ・P&H

需要は堅調も、東南アジアにおけるコロナ拡大による工場の稼働率低下に伴い供給制約が生じたことなどにより、減収となりました。

## ・マシナリー

工業用マシンのアパレル向け設備投資需要の回復、産業機器の自動車向けの中国需要の強さが牽引し、大幅な増収となりました。

## ・N&C

度重なる緊急事態宣言の発令など厳しい状況が継続し、減収となりました。

## ・ドミノ

C&M/DPともに、製品・消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

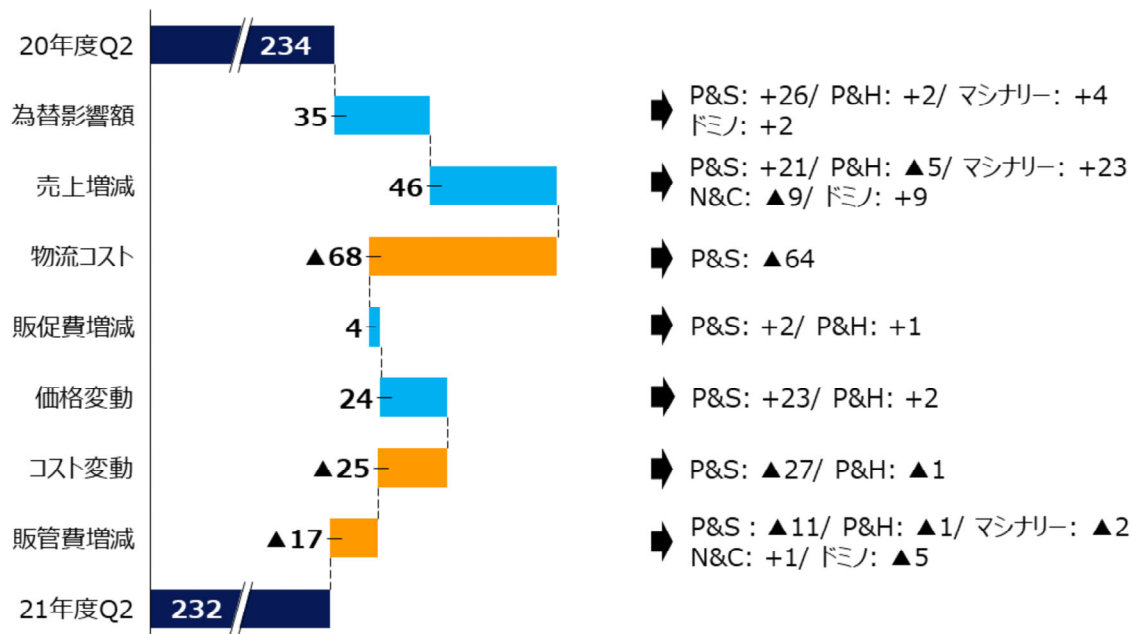
事業によって状況は異なりますが、マシナリー事業・P&S事業の堅調な推移に為替の円安によるプラス影響 **81億円**が加わり、全社では196億円増の **1,765 億円**となりました。

## 2021年度第2四半期 事業セグメント利益の増減要因

brother  
at your side

マシナリー事業・P&S事業における粗利増や為替のプラス効果があったものの、  
物流コストや部材コストアップにより前年度並みの水準となる

単位：億円



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

事業セグメント利益の増減要因です。

### ・為替影響

ほぼP&S事業によるものです。

### ・売上増減

マシナリー事業・P&S事業を中心に各事業の売上が寄与しました。

### ・物流コスト（※これまでは売上増減に入っていたものを 21年度Q1決算から物流コストとして記載しています）

主にP&S事業での物流コスト（海上運賃・航空運賃）が増加しました。  
航空輸送は、レーザー消耗品の供給遅延対応を実施したことによるものです。

### ・価格変動

主にP&S事業によるものです。ミックスの改善により、平均単価が上がりました。

### ・コスト変動

主にP&S事業での半導体や樹脂材料など、部材のコストアップによるものです。

### ・販管費増減

ほぼ全ての事業で販管費は増加しています。

マシナリー事業・P&S事業における粗利増や為替のプラス効果があったものの、  
物流コストや部材コストアップにより事業セグメント利益は、前年度並みの**232**億円となりました。

## 2021年度 上期（4月-9月）累計業績



コロナ影響を大きく受けた前年から業績は改善し、  
売上収益・各段階利益は、第2四半期累計期間で過去最高（IFRS移行後）

単位：億円

	20年度上期	21年度上期	増減	増減率 ( )は為替影響 除く(増減率)
売上収益	2,901	<b>3,505</b>	605	20.8% (+14.4%)
事業セグメント利益	320	<b>494</b>	174	54.4%
事業セグメント利益率	11.0%	<b>14.1%</b>		
その他の収益・費用	5	<b>18</b>	12	
営業利益	325	<b>512</b>	187	57.4%
営業利益率	11.2%	<b>14.6%</b>		
税引前利益	326	<b>516</b>	189	58.0%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	247	<b>368</b>	121	49.1%
USD	106.68	<b>110.18</b>		
EUR	121.36	<b>130.97</b>		

2021年度の第2四半期累計期間の売上収益は、コロナの影響を大きく受けた前年から業績改善し、前年比 605億円増となる **3,505億円** となりました。

事業セグメント利益は、174 億円増の **494 億円**、営業利益は、187億円増の **512億円**となり、利益率は14%を上回りました。

# 2021年度上期累計 事業セグメント別実績

brother  
at your side

単位：億円

		20年度上期	21年度上期	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	1,779	2,052	272
	事業セグメント利益	283	323	40
	営業利益	287	327	40
パーソナル&ホーム	売上収益	252	275	23
	事業セグメント利益	41	58	17
	営業利益	40	58	18
マシナリー	売上収益	340	575	236
	事業セグメント利益	7	88	81
	営業利益	5	88	83
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	150	133	-17
	事業セグメント利益	-27	-20	7
	営業利益	-22	-9	14
ドミノ	売上収益	327	403	77
	事業セグメント利益	20	43	23
	営業利益	14	43	28
その他	売上収益	52	66	14
	事業セグメント利益	-2	3	5
	営業利益	2	5	3
合計	売上収益	2,901	3,505	605
	事業セグメント利益	320	494	174
	営業利益	325	512	187

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

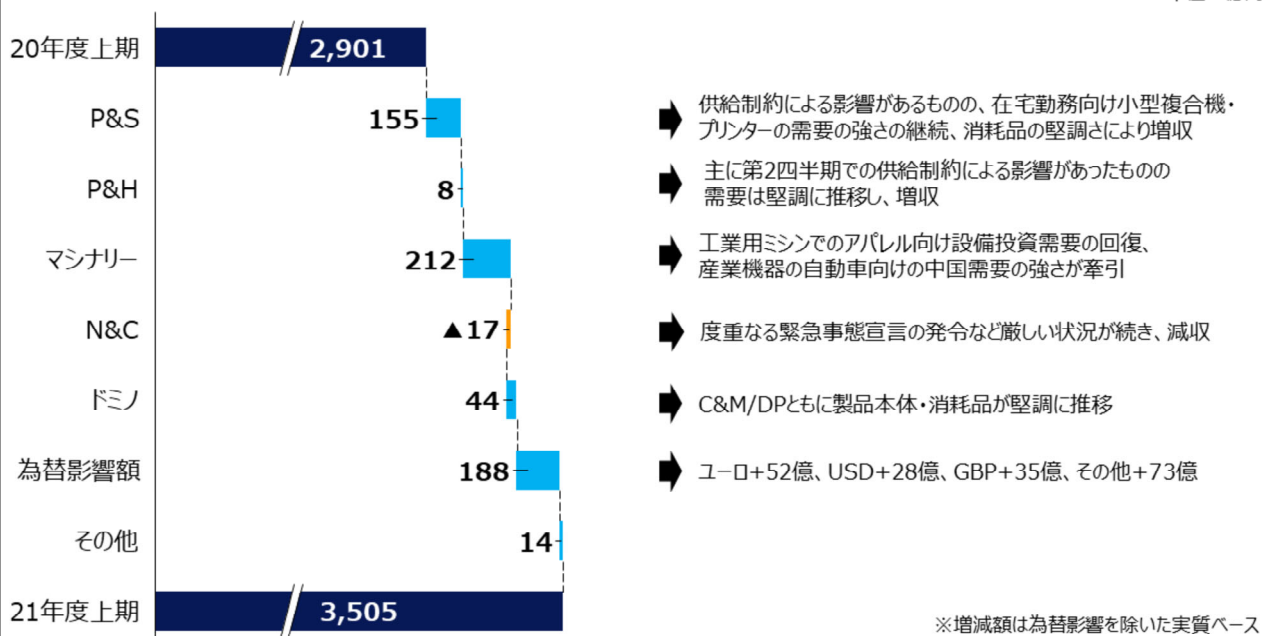
10

事業セグメントごとの業績の一覧です。

# 2021年度上期累計 売上収益の増減要因

コロナ影響を大きく受けた前年から売上は回復し、堅調に推移  
為替のプラス影響も加わり、大幅な増収となる

単位：億円



2021年度 第2四半期累計期間の売上収益の増減要因です。

N&C事業は前年を下回りましたが、他の事業においては全て増収となっております。

### ・P&S

供給制約による販売への影響があるものの、在宅勤務向けの小型複合機・プリンターの需要の強さが継続したこと、消耗品が堅調に推移したことにより増収となりました。

### ・P&H

主に第2四半期における東南アジアでのコロナ拡大による供給制約を受け、販売への影響があったものの、第1四半期の業績が好調に推移したことにより、第2四半期累計期間全体では増収となりました。

### ・マシナリー

工業用マシンのアパレル向け設備投資需要の回復、産業機器の自動車向けの中国需要の強さが牽引し、大幅な増収となりました。

### ・N&C

度重なる緊急事態宣言の発令など、厳しい状況が続き減収となりました。

### ・ドミノ

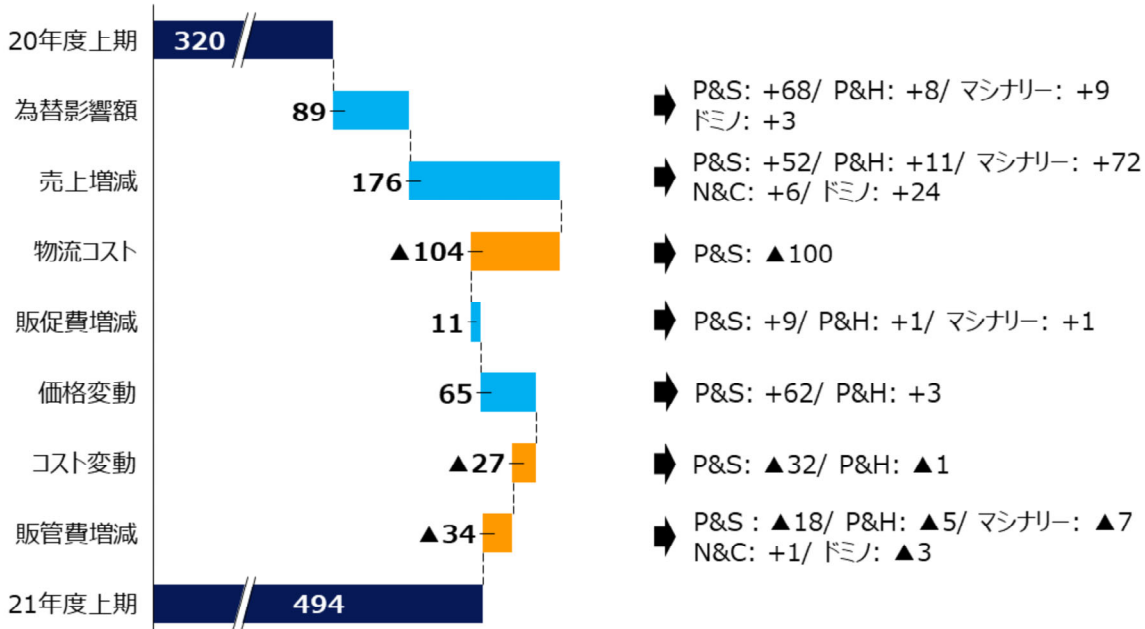
C&M/DPともに、製品・消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

為替は円安により188億円のプラスとなり、全社では605億円増の **3,505**億円となりました。

# 2021年度上期累計 事業セグメント利益の増減要因

マシナリー事業・P&S事業における粗利増やP&S事業の平均単価の上昇に  
為替のプラス効果も加わり、大幅な増益となる

単位：億円



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

事業セグメント利益の増減要因です。主な要素についてコメントします。

### ・為替影響

ほぼP&S事業によるものです。

### ・売上増減

マシナリー事業・P&S事業を中心に各事業の売上増が寄与しました。

### ・物流コスト (※これまでは売上増減に入っていたものを 21年度Q1決算から物流コストとして記載しています)

主にP&S事業での物流コスト(海上運賃・航空運賃)が増加しました。

航空輸送は、工場ロックダウンの影響により、レーザー消耗品の供給遅延対応を実施したことによるものです。

### ・価格変動

主にP&S事業によるものです。ミックスの改善により、平均単価が上がりました。

### ・コスト変動

主にP&S事業での半導体や樹脂材料などの部材のコストアップによるものです。

### ・販管費増減

ほぼ全ての事業で販管費は増加しています。

これらにより、事業セグメント利益は、174億円増の **494** 億円となりました。

## 2021年度 通期業績予想

為替のプラス影響に加え、主に第2四半期における  
P&S事業の利益の上振れを反映し、各段階利益の見通しを上方修正

単位：億円

	前回予想	21年度 今回予想	増減	増減率	20年度 実績	増減	増減率 ( )は為替影響 除く増減率
売上収益	6,950	<b>6,950</b>	0	0.0%	6,318	632	10.0% (+6.5%)
事業セグメント利益	680	<b>780</b>	100	14.7%	781	-1	-0.1%
事業セグメント利益率	9.8%	<b>11.2%</b>			12.4%		
その他の収益・費用	-5	<b>0</b>	5		-353	353	
営業利益	675	<b>780</b>	105	15.6%	427	353	82.5%
営業利益率	9.7%	<b>11.2%</b>			6.8%		
税引前利益	675	<b>780</b>	105	15.6%	429	351	81.6%
親会社の所有者に帰属する当期利益	460	<b>530</b>	70	15.2%	245	285	116.1%
USD	108.81	<b>109.48</b>			106.17		
EUR	127.59	<b>128.59</b>			123.73		

通期の業績予想は、為替レートが想定よりも円安で推移したことによるプラス影響に加え、主に第2四半期でのP&S事業における利益の上振れを反映し、各段階利益の見通しを上方修正いたします。

売上収益は、事業により修正を加えていますが、全体として前回予想から変更はありません。

利益の見通しは、  
 事業セグメント利益は、100億円増の **780**億円  
 営業利益は、105億円増の **780**億円  
 親会社当期利益は、70億円増の **530**億円 に引き上げます。

# 2021年度通期 事業セグメント別予想

単位：億円

		前回予想	21年度予想	増減	20年度実績	21年度予想	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	4,110	4,169	59	3,848	4,169	321
	事業セグメント利益	471	554	83	652	554	-98
	営業利益	489	564	75	610	564	-46
パーソナル&ホーム	売上収益	509	487	-22	537	487	-50
	事業セグメント利益	62	75	13	98	75	-23
	営業利益	64	76	12	96	76	-20
マシナリー	売上収益	1,064	1,073	9	789	1,073	284
	事業セグメント利益	115	119	4	41	119	78
	営業利益	115	118	3	33	118	85
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	335	313	-22	310	313	3
	事業セグメント利益	-17	-26	-9	-52	-26	26
	営業利益	-2	-2	0	-73	-2	71
ドミノ	売上収益	767	780	13	698	780	82
	事業セグメント利益	47	62	15	48	62	14
	営業利益	43	61	18	-239	61	300
その他	売上収益	165	128	-37	136	128	-8
	事業セグメント利益	2	-4	-6	-5	-4	1
	営業利益	-34	-37	-3	2	-37	-39
合計	売上収益	6,950	6,950	0	6,318	6,950	632
	事業セグメント利益	680	780	100	781	780	-1
	営業利益	675	780	105	427	780	353

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

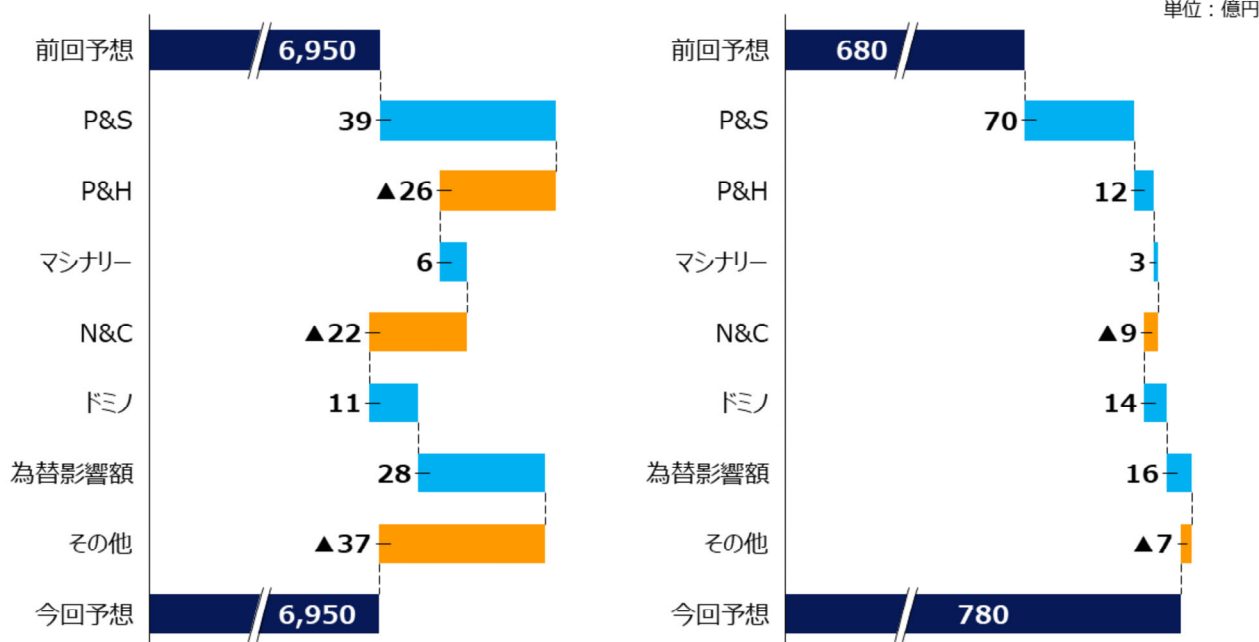
事業セグメントごとの業績予想の一覧です。

# 2021年度通期 売上収益/事業セグメント利益の増減

売上収益の増減

事業セグメント利益の増減

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2021年度の売上収益・事業セグメント利益の前回予想からの主な修正要因です。

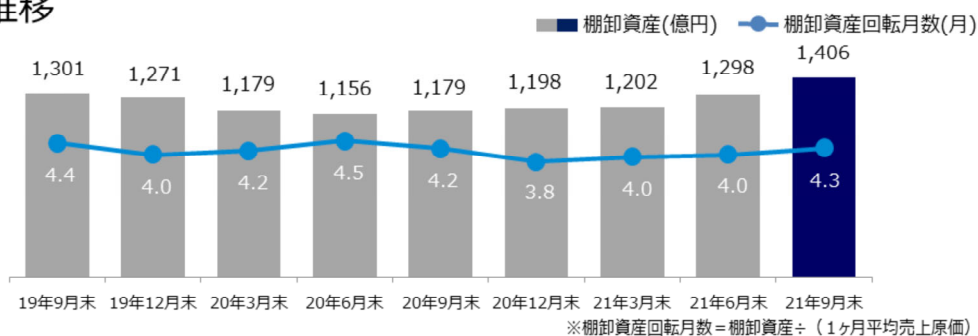
- ・P&S事業については、第2四半期での前回予想を上回る業績の好調さを受け、売上・利益ともに上方修正。
- ・P&H事業については、  
工場の稼働率低下による供給不足の影響、巣ごもり需要の一巡などを織り込み売上は下方修正も、  
利益については第2四半期の不振や製品ミックス改善の効果により上方修正。
- ・マシナリー事業・ドミノ事業については第2四半期の好調さを織り込み、売上・利益ともに上方修正。
- ・N&C事業は、下期の市場回復の前提を見直し、売上・利益ともに下方修正。

これらに為替のプラス影響が加わり、事業セグメント利益全体として、通期の業績見通しを引き上げます。



	20年度末	21年度 Q2末	増減	
流動資産	4,288	<b>4,416</b>	129	ネット・キャッシュ 20年度末 : +1,335億円 21年度Q2末 : +1,346億円
現預金	1,910	<b>1,734</b>	-176	
棚卸資産	1,202	<b>1,406</b>	205	
非流動資産	3,151	<b>3,163</b>	11	株主資本比率 20年度末 : 64.9% 21年度Q2末 : 67.6%
負債合計	2,442	<b>2,290</b>	-152	
有利子負債	575	<b>387</b>	-187	
株主資本	4,831	<b>5,120</b>	289	
総資産	7,439	<b>7,579</b>	140	

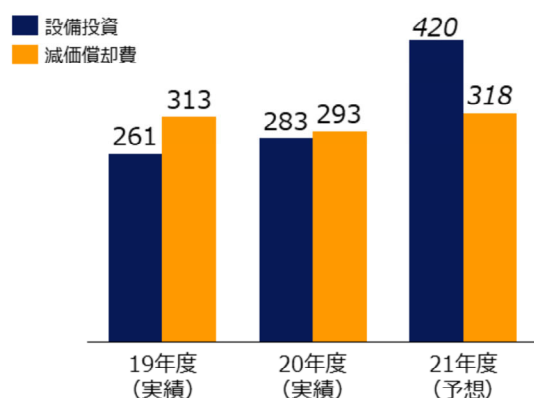
## 棚卸資産推移



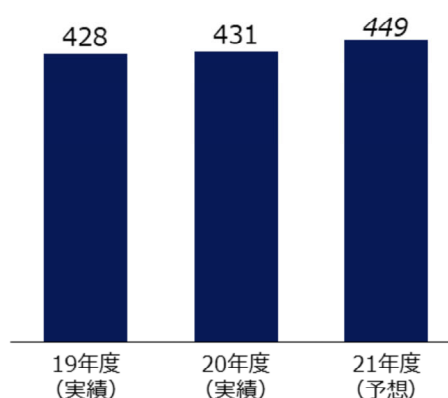
ネットキャッシュは、1,346億円となりました。

棚卸資産の水準は、主にP&S事業での消耗品在庫の充足が進んだことなどにより、若干上がっています。

## 設備投資・減価償却費



## 研究開発費



### 事業別設備投資内訳

	19年度	20年度	21年度
P&S	109	135	199
P&H	5	10	14
マシナリー	24	30	52
N&C	49	19	28
ドミノ	21	21	34
その他	52	67	93
計	261	283	420

### 事業別研究開発費内訳

	19年度	20年度	21年度
P&S	277	283	277
P&H	22	20	24
マシナリー	54	51	61
N&C	9	9	11
ドミノ	38	40	44
その他	29	28	33
計	428	431	449

2021年度の設備投資、減価償却費、研究開発費については前回公表時からの変更はありません。

## セグメント業績概要

# プリンティング&ソリューションズ事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

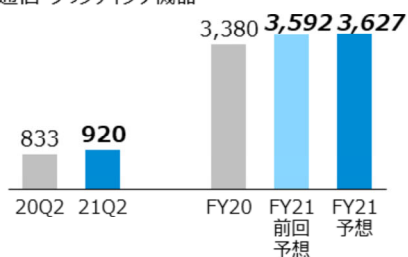
brother  
at your side

単位：億円

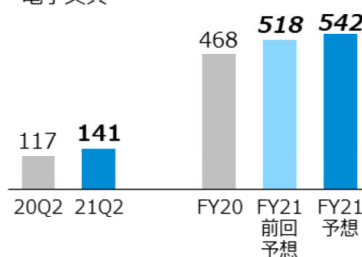
	20Q2	21Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>950</b>	<b>1,061</b>	<b>11.6%</b>	<b>6.2%</b>	<b>3,848</b>	<b>4,110</b>	<b>4,169</b>	<b>8.4%</b>	<b>4.5%</b>
<b>通信・プリンティング機器</b>	<b>833</b>	<b>920</b>	<b>10.3%</b>	<b>5.0%</b>	<b>3,380</b>	<b>3,592</b>	<b>3,627</b>	<b>7.3%</b>	<b>3.6%</b>
米州	298	331	11.1%	5.6%	1,214	1,251	1,275	5.1%	1.2%
欧州	272	290	6.5%	1.1%	1,133	1,147	1,148	1.3%	-2.5%
アジア他	163	189	15.7%	7.4%	622	670	679	9.2%	3.3%
日本	100	110	9.9%	9.9%	410	524	524	27.7%	27.7%
<b>電子文具</b>	<b>117</b>	<b>141</b>	<b>20.9%</b>	<b>14.9%</b>	<b>468</b>	<b>518</b>	<b>542</b>	<b>15.8%</b>	<b>11.4%</b>
米州	50	68	36.4%	29.9%	204	225	244	19.3%	15.0%
欧州	36	39	7.2%	1.6%	142	161	167	17.7%	13.1%
アジア他	17	22	28.4%	18.1%	70	82	84	19.8%	12.2%
日本	13	12	-9.5%	-9.5%	52	50	48	-8.2%	-8.2%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>189</b>	<b>159</b>	<b>-16.0%</b>	<b>-</b>	<b>652</b>	<b>471</b>	<b>554</b>	<b>-15.0%</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b>	<b>186</b>	<b>164</b>	<b>-12.1%</b>	<b>-</b>	<b>610</b>	<b>489</b>	<b>564</b>	<b>-7.5%</b>	<b>-</b>

<売上収益>

通信・プリンティング機器

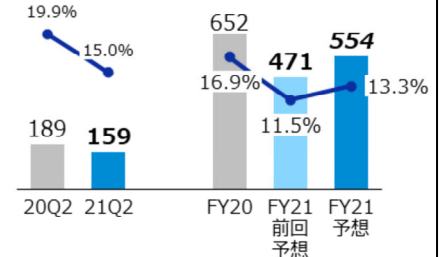


電子文具



<事業セグメント利益>

利益率



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

20

P&S事業の第2四半期の売上収益は1,061億円。現地通貨ベースでの伸び率はプラス6.2%の増収となりました。

## ・通信・プリンティング機器

売上収益は**920**億円。現地通貨ベースでの伸び率は、プラス5.0%の増収となりました。

インクジェット複合機においては、前年は工場のロックダウンによる供給制約がありましたが、今期は供給状況は改善に向かい、製品本体の販売数量は大幅に増加しました。

一方で、レーザー複合機・プリンターでは、コロナ影響により工場の稼働率が低下したことでの供給制約が影響し、製品本体の販売数量は落ち込みました。消耗品については供給遅延への対策として空輸対応を実施しました。

製品により供給状況に差が出ているものの、在宅勤務向けの製品本体の需要は引き続き強く、ミックスの改善や価格対応の効果に消耗品の堅調な推移と為替のプラス影響も加わり、事業全体で増収となりました。

## ・電子文具

売上収益は**141**億円。現地通貨ベースでの伸び率は、プラス14.9%の増収となりました。

ラベルライター・ラベルプリンター、モバイルプリンターを中心とするソリューション分野とも、需要の回復により増収となりました。

事業セグメント利益は、為替のプラス影響、消耗品全般の堅調な推移があったものの部材・物流コストの増加が響き、前年同期比マイナス16.0%の**159**億円となりました。

# プリンティング&ソリューションズ事業 主要製品別売上伸び率・構成比

brother  
at your side

	19Q1	19Q2	19Q3	19Q4	20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	21Q1	21Q2	21Q3	21Q4	19通期	20通期	21通期 予想
<b>LBP</b>															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	-9%	-8%	-7%	-2%	6%	19%	18%	18%	-10%	-4%	-	-	-7%	15%	-3%
消耗品	2%	-6%	-2%	-3%	-18%	1%	0%	-1%	21%	15%	-	-	-2%	-5%	9%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	-6%	-4%	-3%	2%	11%	22%	21%	18%	-16%	-9%	-	-	-3%	18%	-6%
消耗品	4%	-1%	3%	0%	-15%	2%	2%	-3%	12%	9%	-	-	1%	-4%	5%
<b>IJP</b>															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	-2%	8%	-7%	-3%	-37%	-49%	-12%	-3%	90%	95%	-	-	-1%	-25%	40%
消耗品	1%	-2%	-8%	4%	-23%	-1%	9%	-6%	11%	-6%	-	-	-2%	-5%	-5%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	1%	13%	-4%	0%	-33%	-48%	-9%	-3%	79%	87%	-	-	2%	-23%	36%
消耗品	3%	3%	-5%	7%	-20%	-1%	10%	-8%	5%	-10%	-	-	2%	-5%	-8%
消耗品比率															
	60%	58%	57%	59%	55%	57%	55%	56%	56%	57%	-	-	58%	55%	55%
販売台数伸び率（実績のみ/前年比）															
LBP	-13%	-4%	-2%	3%	12%	10%	6%	0%	-28%	-16%	-	-	-5%	7%	-
IJP	0%	13%	1%	7%	-39%	-57%	-24%	-25%	65%	101%	-	-	5%	-36%	-

© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

21

第2四半期における主要製品の売上伸び率・構成比です。

## ・売上伸び率（現地通貨ベース）

レーザー（LBP）の売上伸び率は、本体がマイナス9%、消耗品はプラス9%となりました。  
工場の操業が低下していたことによる製品本体の供給制約は徐々に改善しつつありますが、挽回にはいたっていません。  
消耗品は、お客様対応優先のため航空輸送を行い、在庫の充足に努めています。

インクジェット（IJP）の売上伸び率は、本体がプラス87%、消耗品はマイナス10%となりました。

前年は年間を通じて供給制約のため本体の売上は大きく落ち込んでいましたが、今年度は供給状況が改善したことで大きく伸びています。

## ・販売台数伸び率：

レーザー（LBP）では、供給制約が影響し、マイナス16%となりました。  
一方、インクジェット（IJP）では、工場のロックダウン影響を受け販売台数が大きく落ち込んだ前年同期と比較して、供給状況は改善し、プラス101%となりました。

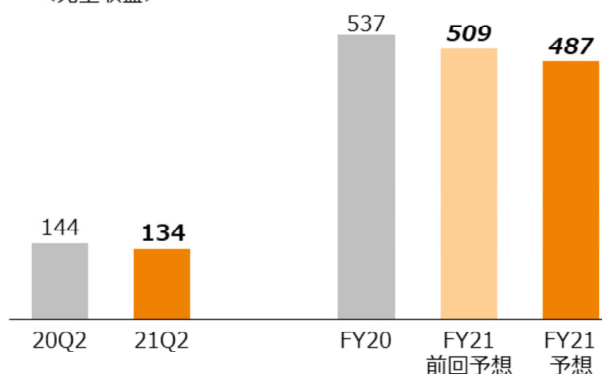
# パーソナル&ホーム事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益



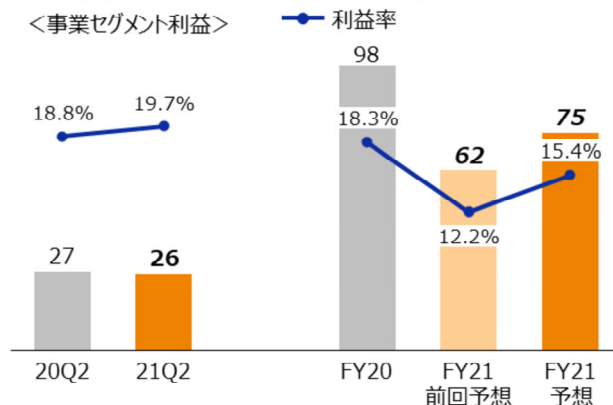
単位：億円

	20Q2	21Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
	<b>売上収益</b>	<b>144</b>	<b>134</b>	-6.7%	-10.9%	<b>537</b>	<b>509</b>	<b>487</b>	-9.3%
米州	74	79	7.4%	2.5%	273	271	265	-3.0%	-6.5%
欧州	42	36	-16.0%	-20.0%	160	146	139	-13.2%	-17.2%
アジア他	14	12	-10.0%	-15.3%	56	56	49	-11.6%	-15.8%
日本	14	7	-48.7%	-48.7%	48	37	34	-29.7%	-29.7%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>27</b>	<b>26</b>	-2.3%	-	<b>98</b>	<b>62</b>	<b>75</b>	-23.5%	-
<b>営業利益</b>	<b>26</b>	<b>28</b>	5.9%	-	<b>96</b>	<b>64</b>	<b>76</b>	-21.2%	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

22

P&H事業の第2四半期の売上収益は**134**億円、現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス10.9%の減収となりました。

足元での需要は、海外では総じて堅調に推移したものの、東南アジアでのコロナ感染拡大により工場の稼働率が低下し、供給制約による販売機会の損失が生じました。

事業セグメント利益については、部材のコストなどは増加したものの、製品ミックスの改善や販促費の抑制などにより、前年同期とほぼ並ぶ高い水準となりました。

# マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

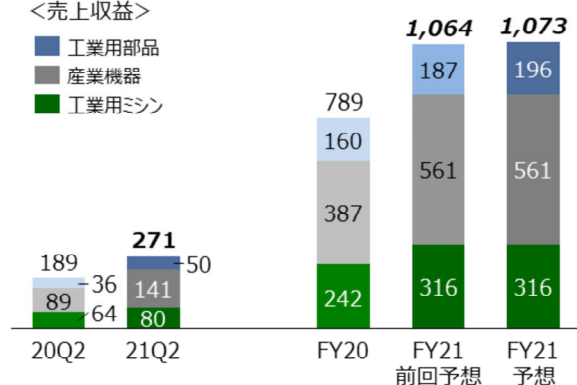


単位：億円

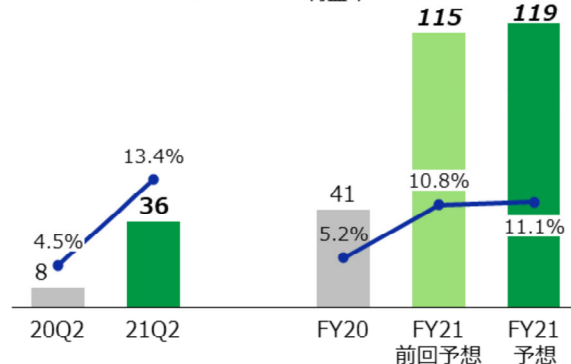
	20Q2	21Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	189	271	43.4%	38.3%	789	1,064	1,073	36.0%	31.8%
工業用マシン	64	80	25.3%	18.4%	242	316	316	30.8%	25.3%
産業機器	89	141	57.3%	52.5%	387	561	561	44.9%	40.3%
工業用部品	36	50	41.1%	38.6%	160	187	196	22.1%	20.9%
事業セグメント利益	8	36	329.7%	-	41	115	119	188.8%	-
営業利益	9	37	320.6%	-	33	115	118	257.2%	-

＜売上収益＞

■ 工業用部品  
■ 産業機器  
■ 工業用マシン



＜事業セグメント利益＞ ● 利益率



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

23

マシナリー事業の第2四半期は、3つの事業全てにおいて、売上、利益ともに好調に推移しました。

売上収益は、マシナリー事業全体で**271**億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス38.3%の大幅な増収となりました。

売上収益の内訳は、  
工業用マシンが**80**億円、産業機器が**141**億円、工業用部品が**50**億円となりました。

## ・工業用マシン

工業用マシンについて、アジア・中国向けでのアパレル設備投資需要の回復により、好調に推移しました。

## ・産業機器

中国の自動車関連市場向けが堅調に推移したことに加え、前年度末のIT関連顧客向けのスポット受注の効果もあり、大幅な増収となりました。

## ・工業用部品

設備投資需要の回復により、減速機・歯車ともに大幅な増収となりました。

事業セグメント利益は、増収効果により、前年同期の8億円に対して**36**億円となり、大幅な増益となりました。

# マシナリー事業 地域別売上収益

brother  
at your side

単位：億円

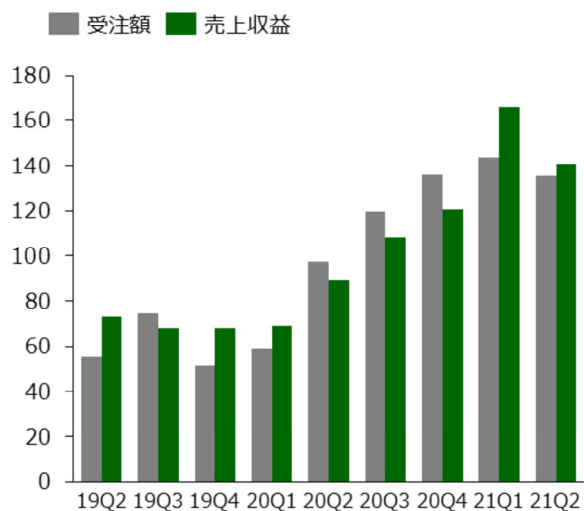
	20Q2	21Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>189</b>	<b>271</b>	<b>43.4%</b>	<b>38.3%</b>	<b>789</b>	<b>1,064</b>	<b>1,073</b>	<b>36.0%</b>	<b>31.8%</b>
<b>工業用マシン</b>	<b>64</b>	<b>80</b>	<b>25.3%</b>	<b>18.4%</b>	<b>242</b>	<b>316</b>	<b>316</b>	<b>30.8%</b>	<b>25.3%</b>
米州	29	23	-19.8%	-23.4%	87	98	94	8.5%	4.8%
欧州	14	15	7.0%	1.8%	56	73	72	30.6%	26.2%
アジア他	18	39	116.3%	101.7%	88	130	146	66.7%	57.7%
日本	3	3	3.2%	3.2%	12	16	3	-71.2%	-71.2%
<b>産業機器</b>	<b>89</b>	<b>141</b>	<b>57.3%</b>	<b>52.5%</b>	<b>387</b>	<b>561</b>	<b>561</b>	<b>44.9%</b>	<b>40.3%</b>
米州	1	10	590.8%	-	20	34	33	65.8%	-
欧州	3	8	171.6%	-	19	30	34	77.3%	-
アジア他	73	102	40.2%	-	289	401	406	40.3%	-
日本	12	21	71.9%	-	59	97	89	50.2%	-
<b>工業用部品</b>	<b>36</b>	<b>50</b>	<b>41.1%</b>	<b>38.6%</b>	<b>160</b>	<b>187</b>	<b>196</b>	<b>22.1%</b>	<b>20.9%</b>
米州	5	8	50.3%	43.7%	21	20	27	31.0%	26.5%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	4	6	59.2%	45.5%	20	22	23	18.0%	10.2%
日本	27	36	36.6%	36.6%	120	145	146	21.3%	21.3%



# マシナリー事業（産業機器） 受注額の推移

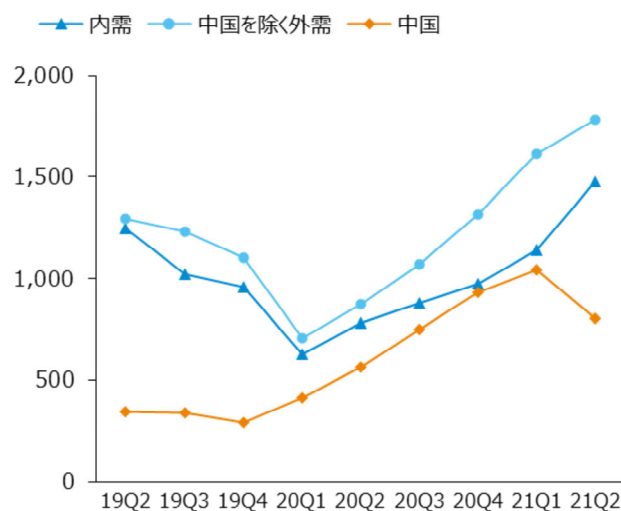
単位：億円

受注額・売上収益の推移



※国内・海外の製品本体の受注額合計  
海外受注額は各四半期の為替レートにて円換算

(参考) 日工会受注統計



※出所：（一社）日本工作機械工業会 工作機械主要統計より

四半期ごとの売上収益と受注額です。

受注額は、国内受注と海外受注を合わせた製品本体受注の合計額です。

中国向けを中心に前年との比較では受注の強い状態が継続していますが、21年度の第1四半期と比較すると第2四半期での受注は落ち着きを見せています。

日工会の受注統計でも同様に、内需・外需とも回復は進んでいますが、中国だけを切り出してみると勢いの鈍化が見られます。

# ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

単位：億円

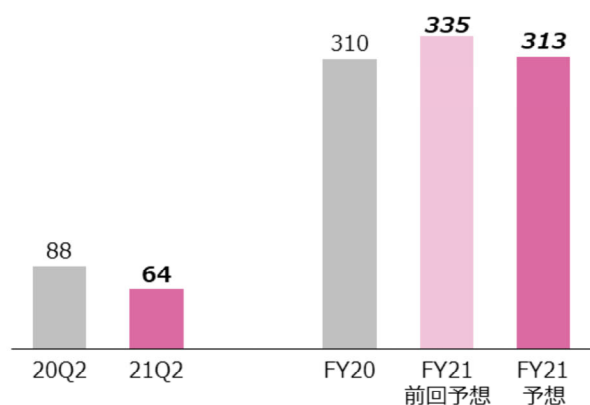
	20Q2	21Q2	増減率
売上収益	88	64	-27.7%

	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率
売上収益	310	335	313	0.9%

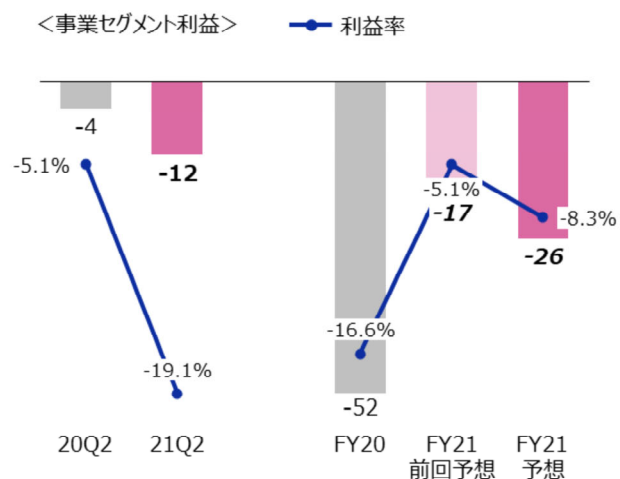
事業セグメント利益	-4	-12	-
営業利益	0	-5	-

事業セグメント利益	-52	-17	-26	-
営業利益	-73	-2	-2	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

26

N&C事業の第2四半期の売上収益は**64**億円、前年同期比マイナス27.7%の減収となりました。

国内でのコロナ再拡大の影響による度重なる緊急事態宣言の発令など、厳しい経営環境が続き、店舗事業、カラオケ事業ともに売上収益は前年を下回りました。

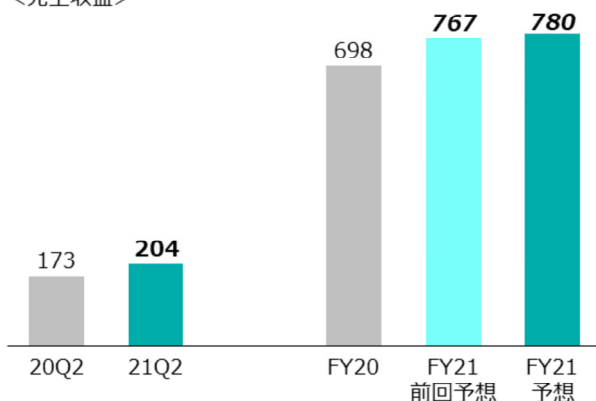
事業セグメント利益については、費用削減を進めたものの、コロナ再拡大による影響を補いきれず、前年同期の4億円の赤字に対して**12**億円の赤字となりました。

営業利益については、雇用調整助成金の効果もありましたが、**5**億円の赤字となりました。

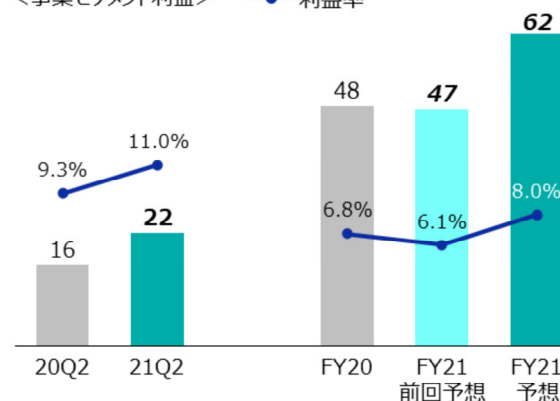
単位：億円

	20Q2	21Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY20	FY21 前回予想	FY21 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	173	204	17.9%	9.9%	698	767	780	11.7%	5.0%
米州	45	51	13.1%	5.5%	176	190	192	8.9%	3.0%
欧州	77	91	17.5%	6.8%	324	358	362	11.7%	3.8%
アジア他	51	62	22.6%	16.2%	198	219	226	14.1%	9.3%
事業セグメント利益	16	22	39.9%	-	48	47	62	30.4%	-
営業利益	12	22	80.5%	-	-239	43	61	-	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

27

ドミノ事業の第2四半期の売上収益は**204**億円、ポンドベースの伸び率は、プラス9.9%の増収となりました。

製品本体は、C&Mに加えてDPも市況が回復し、消耗品についてもC&M/DPともに引き続き堅調に推移しています。

事業セグメント利益については、**22**億円となりました。

主に売上増による効果により、前年同期比プラス39.9%の大幅な増益となりました。

**brother**  
at your side

# 株式会社ニッセイに対する 公開買付けの開始について

2021年11月8日

**ブラザー工業株式会社**

代表取締役社長 佐々木 一郎

## 約60.2%の株式を保有している連結子会社のニッセイに対する公開買付けを実施

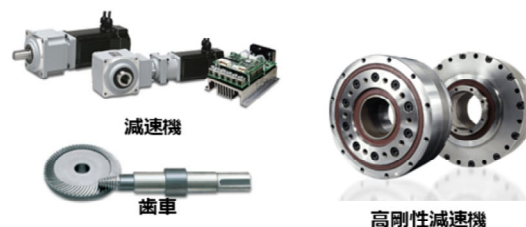
▶ ブラザーグループ全体としての意思決定の迅速化とともに中期戦略「CS B2021」で定めた「マシナリー・FA領域の成長加速」に注力し、両社でブラザーグループの更なる企業価値の向上を追求する

### ◆公開買付けの概要

買付期間	2021年11月9日～12月21日 (30営業日)
買付価格	普通株式1株につき1,500円 (11月5日の終値に対するプレミアム +44.23%)
買付予定数	普通株式の全て (但し、当社及びニッセイが所有する株式数を除く)
買付予定数の下限	1,801,242株 (ニッセイが所有する株式を除く発行済株式の6.50%)
買付資金	自己資金
二段階買取に関する事項	公開買付けで普通株式の全てを取得できなかった場合は、成立後、①株式売渡請求又は②株式併合の方法によりスウィーズアウトを実施予定

### Nissei

商号 株式会社 ニッセイ  
 本社所在地 愛知県安城市和泉町井ノ上1番地1  
 代表者 代表取締役社長 野崎 剛寿  
 (のざき よしひさ)  
 主な事業内容 減速機、歯車の製造・販売  
 及び不動産賃貸事業  
 上場証券取引所 東証・名証 市場第二部



本日11月8日、連結子会社のニッセイに対する公開買付けを実施することを発表しました。

ニッセイは、2013年1月にブラザー工業が連結子会社化した小型ギアモータ・OEM歯車市場におけるトップメーカーです。ニッセイが担う工業用部品事業は、マシナリー事業に属しており、主に減速機事業と歯車事業の2つの事業で構成されています。減速機事業では、搬送機械・工作機械・食品包装機械など様々な分野の幅広いお客様にギアモータなどを製造・販売し、歯車事業では、ロボット用精密歯車をはじめ、工作機械用及び電動工具用などの各種OEM歯車を製造・販売しています。

ブラザーグループでは、現中期戦略CS B2021で掲げた「マシナリー・FA領域の成長加速」の実現に向けて、今後成長が期待されるロボット市場やFA機器市場に特に注力しており、ニッセイの精密歯車で新規案件獲得や、新しく開発した高剛性減速機の市場投入のスピードアップにより、更なる売上拡大に向けて取り組みをすすめています。

ブラザー工業は現在60.17%のニッセイ株式を保有していますが、本公開買付けにより、ニッセイの完全子会社化を目指します。ニッセイを完全子会社化・非公開化することで、両社の連携、及び経営資源やノウハウの共有、人材交流の活性化をさらに積極的に推進します。カーボンニュートラルやデジタル化の加速など、事業環境が大きく変化していく中、ブラザーとニッセイがこれまで以上に一丸となり、グループとして、多様な独自技術やグローバルネットワークを強みに事業を拡大し、本日これよりお話をさせていただく新しいブラザーグループのビジョンで掲げている「産業用領域での飛躍」を加速してまいります。

公開買付けの概要はこちらのスライドの通りであり、明日11月9日より公開買付けを開始します。公開買付けの結果については、リリース等にてあらためてお知らせします。

# ブラザーグループ新ビジョン

2021年11月8日

**ブラザー工業株式会社**

**代表取締役社長 佐々木 一郎**

※ブラザーグループ新ビジョン「At your side 2030」に関する説明資料は、  
2021年10月6日（水）に以下のウェブサイトで公開したものと同一ものです。  
<https://global.brother/ja/corporate/vision>

※ブラザーグループ新ビジョン「At your side 2030」に関する説明資料は、  
2021年10月6日（水）に以下のウェブサイトで公開したものと同一ものです。  
<https://global.brother/ja/corporate/vision>

## 新ビジョン策定の背景

はじめに、新ビジョン策定の背景についてご説明します。



## 創業より社会課題解決を目指し、お客様のニーズの変化をとらえ事業を変革



設立趣意書

- 創業の精神**
- 一、働きたい人に仕事をつくる
  - 一、愉快的工場をつくる
  - 一、輸入産業を輸出産業にする



1928年 最初の電子製造用縫紉マシン  
1932年 家庭用マシン  
1936年 工業用縫紉マシン



1961年 最先端デジタルタイプライター



1971年 高速ドットマトリクスプリンター



1976年 電子マシン



1980年 電子オフィスタイプライター



1988年 CNCパunchedカードリーダー



1987年 アフラス



1991年 24ピンレーザー照準器付き電子マシン



1994年 レザラープリンター



1995年 レザラープリンター



1997年 インクジェット複写機



2000年 ゲーム機プリンター



2005年 カラーレザラー複写機



2011年 ドキュメントスキャナー



2012年 電子モーター

### 売上収益推移

2015年度以前は日本基準の売上高



ブラザーグループは、1908年にミシンの修理業ではじまり、その後、独自の技術開発を行い、蓄積したコア技術を駆使して事業を多角化し、お客様のニーズの変化をとらえながら事業を変革してきました。あらゆる場面で、お客様を第一に考えた、ユニークでオリジナリティーのあるモノ創りが我々の成長の原動力となってまいりました。

また、「働きたい人に仕事をつくる」、「愉快的工場をつくる」、「輸入産業を輸出産業にする」ことを創業の精神で謳っており、ブラザーでは古くから社会に貢献し、明るく、従業員がやりがいを持って働くことができる職場環境の構築を目指して事業活動を行っています。

## “At your side.”の精神で事業活動を推進



あらゆる場面でお客様を第一に考える  
“At your side.”の精神



「ブラザーグループ グローバル憲章」  
グローバルに展開するブラザーグループ  
すべての活動の礎

ブラザーグループは“At your side.”の精神で、事業を展開してまいりました。

“At your side”とは、あらゆる場面でお客様を第一に考え、常にお客様の立場に立って物事を考え、事業を進めていくということで、ブラザーが大切にしてきた精神です。

また、世界中のブラザーグループ従業員約4万人の活動の礎となるのが、「ブラザーグループ グローバル憲章」です。今では28か国語に翻訳され、世界40以上の国と地域で働くすべてのブラザーグループ従業員に展開されています。

## ■ 社会の変化に加えて、ブラザーを取り巻く事業環境も変化している

### 社会の変化

- 働き方を始め、人々の価値観が大きく変化
- サステナビリティに対する要望が高まり、企業の存在意義・社会的価値を問う動きがグローバルで拡大
- 新型コロナの影響で変化が加速

### 事業環境の変化

- デジタル化、リモート化
- 製造現場における自動化・ネットワーク化の加速
- 購買行動の多様化
- 災害、感染症、地政学リスク等によるサプライチェーンリスクの高まり
- マスカスタマイゼーション需要の高まり

昨今、社会の変化に加え、ブラザーを取り巻く事業環境は大きく変化しています。

働き方の変革は、新型コロナウイルスの流行でさらに加速し、サステナビリティに対する要望の高まりや、企業の存在意義や価値を問う動きは拡大しています。ブラザーのビジネスを取り巻く環境も、デジタル化やリモート化などをはじめとした変化が起きています。

我々がこのような変化に対応しながら、成長していくためには、長期的な視点で目指す姿を描き、戦略へつなげていく必要があると考え、2030年度に向けた新しいビジョンの策定を行うこととしました。

# 新ビジョン

ブラザーグループ新ビジョン

# At your side 2030

© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

37

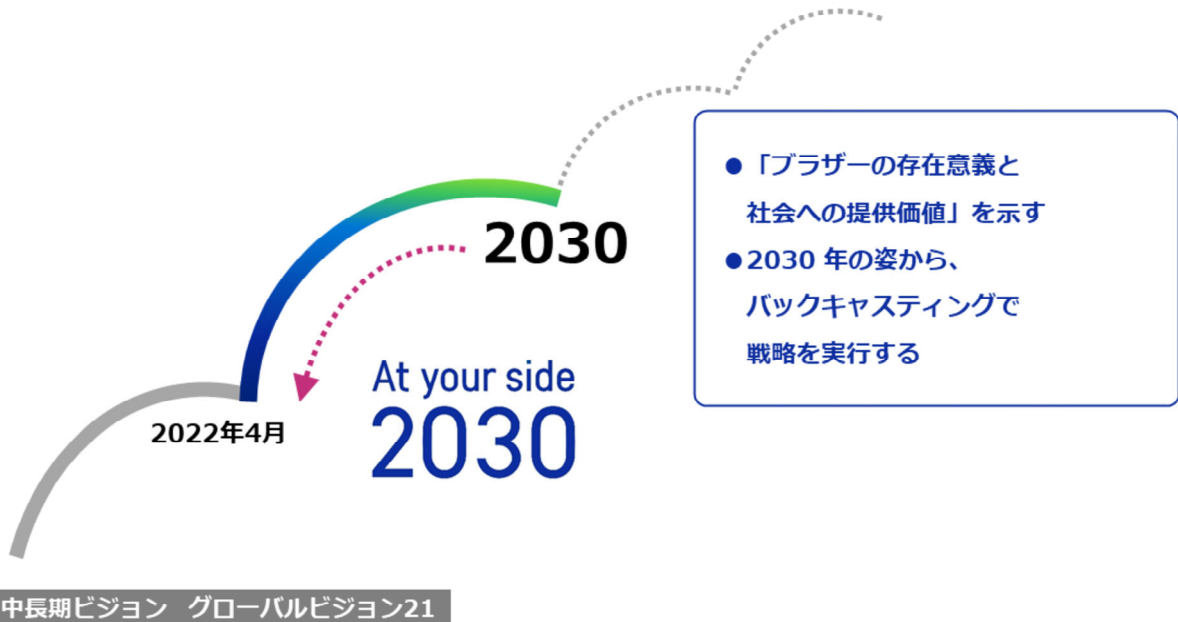
新しいビジョンの名称は、「At your side2030（ニーマルサンマル）」です。

今後も変えてはいけない“*At your side.*”の精神を意識し、大切にしながら、ブラザーグループの2030年度に向けた方向性を示すものとして名付けました。

このビジョンは、ブラザーグループの次世代を担うメンバーがコロナ禍の中リモートを駆使して話し合いを重ねて案を作り、役員も加わりさらに検討を重ね、約10カ月の期間を費やして完成させました。

「ブラザーの存在意義と社会への提供価値」を示し

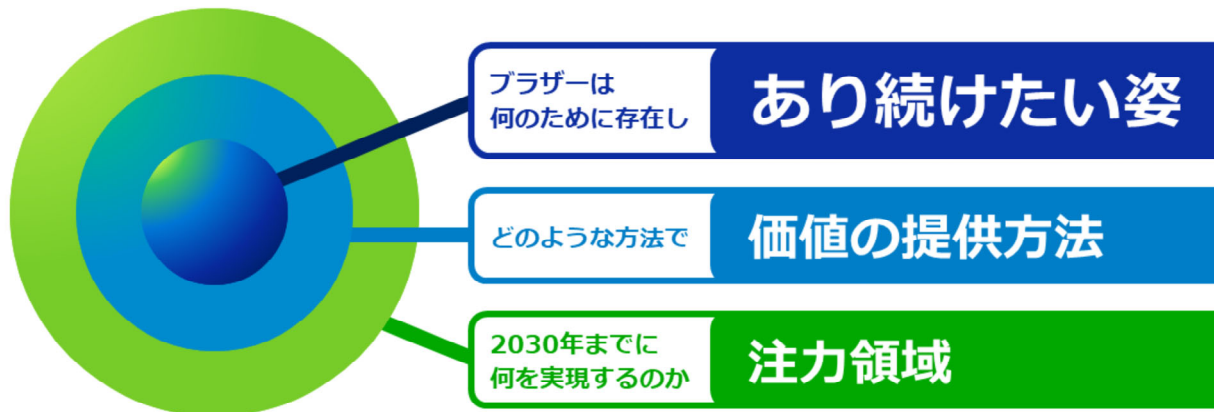
2030年という期限を明確に区切り、バックキャストで戦略を実行していく



今回のビジョンでは、我々は何のために存在し、そしてどのような価値を社会に提供できるのかを示しました。そして2030年という具体的なゴールを設定することで、今後はそこからバックキャストで戦略に落とし込んでいきます。

なお、このビジョンに基づく次期中期戦略につきましては、現在策定中で、来年春ごろの発表を予定しております。少し先になりますが、詳しい内容については発表までお待ちいただければと存じます。

2030 年に向けて、お客様と社会にどのような価値を提供するのか  
「あり続けたい姿」を起点に「価値の提供方法」「注力領域」を示す



次に、ビジョンの構成についてご説明いたします。

私たちブラザーグループの「あり続けたい姿」を起点に、お客様や社会へどのように価値を提供するのか、そして具体的に2030年までにどのような分野に注力していくのかを示しています。

# At your side 2030

## あり続けたい姿

世界中の“あなた”の生産性と創造性をすぐそばで支え、  
社会の発展と地球の未来に貢献する

## 価値の提供方法

多様な独自技術とグローバルネットワークを強みに、  
お客様の成功へのボトルネックを見つけ解消する

## 注力領域

- ・産業用領域のかけがえのないパートナーになる
- ・プリンティングのオンリーワンを極め、次を切り拓く

これから具体的に「あり続けたい姿」「価値の提供方法」「注力領域」についてご説明いたします。



## あり続けたい姿

### 世界中の“あなた”の生産性と創造性をすぐそばで支え、 社会の発展と地球の未来に貢献する

- 自らの生産性や創造性を最大限に発揮して、価値創出を行いたい、  
進歩し続けたいと願うすべての“あなた”のその思いを叶えるために  
ブラザーは存在します。
- そして“あなた”とともに、人と社会の持続的な発展を実現し  
地球環境への責任を果たすことで、よりよい未来に貢献します。

まずは、あり続けたい姿についてです。

ブラザーグループは、

「世界中の“あなた”の生産性と創造性をすぐそばで支え、社会の発展と地球の未来に貢献する」、  
このような存在であり続けたいと考えます。

これは、ブラザーが提供する普遍的な価値や存在意義を示すものです。この「生産性と創造性を向上させたい」という思想が  
まさに、“At your side.”の精神であり、これからもしっかりと引き継いでいくべきものです。

時代が移り変わっても、お客様をはじめとした“あなた”が本来持っている価値創出や  
進歩の力をすぐそばで支えられる存在として、よりよい未来に貢献する



あり続けたい姿にある「あなた」とは、まずはお客様ですが、同時にブラザーグループの従業員のこともあります。つまり、私たち  
自ら生産性・創造性を向上させていくという考えです。

そして、カーボンニュートラルなどをはじめとしたサステナビリティに対する要請がますます高まる中、ブラザーの存在意義は社会  
と地球に貢献し、よりよい未来を作ることであると明確に宣言いたしました。

## 価値の提供方法

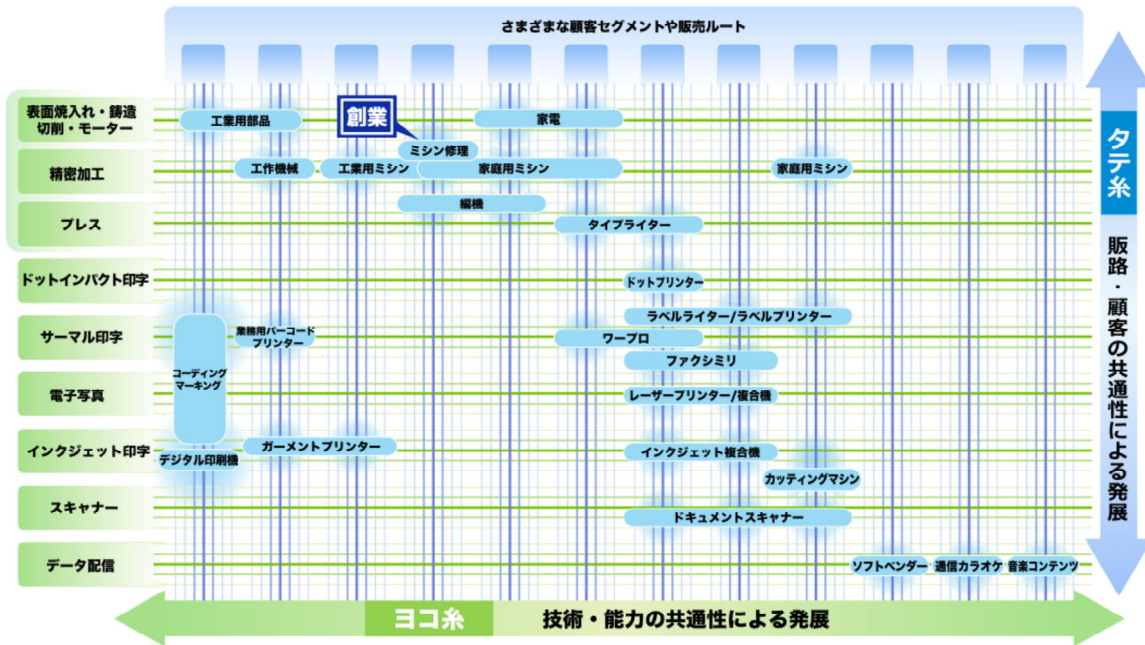
### 多様な独自技術とグローバルネットワークを強みに、 お客様の成功へのボトルネックを見つけ解消する

- グローバル複合事業企業ならではの強みを、外からの学びによりアップデートし続け、事業を越えて最大限に活用します。
- お客様のバリューチェーンに向き合い、真に解消すべき制約や課題を見つけ、モノづくりにとどまらない価値づくりを通じて、お客様のありたい姿を実現します。

続いて、価値の提供方法についてです。

ブラザーが持つ多様な独自技術とグローバルネットワークを強みに、お客様の成功へのボトルネックを見つけ解消します。

創業以来、技術または販路・顧客の連続性を活かし、新たな事業を生み出してきた。  
この連続性をタテ糸・ヨコ糸とし、織りなされた広がりがブラザー独自の強み



この図は販売ルートやお客様とのつながりの連続性と、技術のつながりによる広がりをタテ糸・ヨコ糸として表現し、製品やサービスを配置したものです。

ブラザーは創業以来、独自の技術や販売ルート、お客様とのつながりの連続性を活かし、新たな事業を生み出してきました。110年以上の歴史の中で織りなされたこの広がりこそが、ブラザーの強みです。

ブラザーでは「技術とは、お客様の役に立ち、ボトルネックを解消するための手段」だと考えます。

今後もこれら、技術と販路、お客様とのつながりを生かし、お客様のボトルネックを解消するための最適な技術を活用することで、新たな価値を提供し続けます。

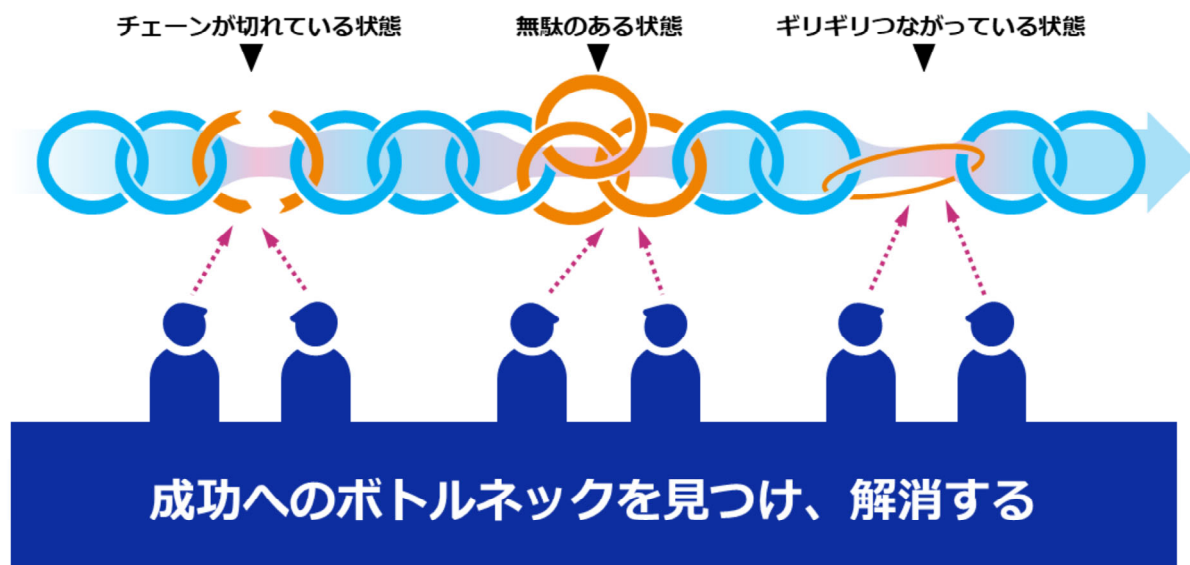
40以上の国と地域に広がる生産・販売・サービス・開発拠点のネットワークを活かし、外部からの学びを得ながら、グローバルチームブラザーで優れた価値を迅速に提供する



また、ブラザーは現在40以上の国と地域に生産・販売・サービス、開発拠点をもち、グローバルに展開しています。これらの拠点網を生かし、製品やサービスに対する世界中のお客様からの声をお聞きし、速いスピードで改善を実施して次につなげてまいりました。今後はこれに加えて、外部のパートナーと連携することで情報や学びを得ながら、優れた価値をグローバルに迅速に提供していきます。

■ お客様のバリューチェーンに向き合い、その流れを妨げるボトルネックを見つける

ボトルネックにより流れが妨げられているお客様のバリューチェーン

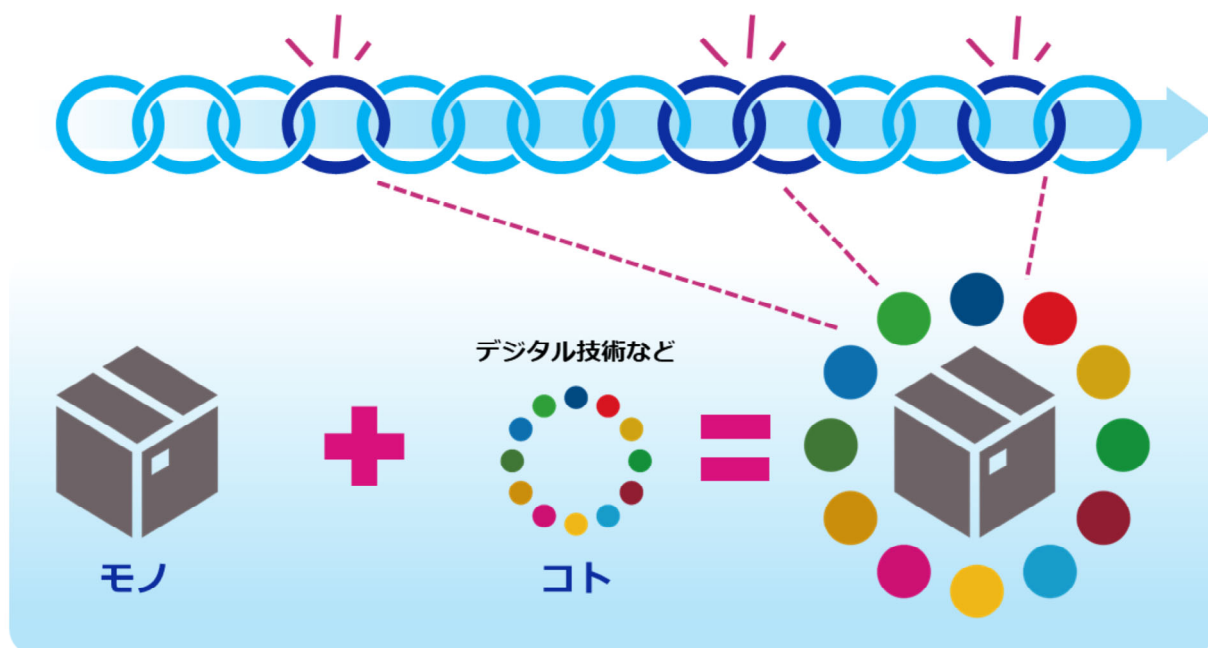


「ボトルネック」とは、お客様の価値創造のプロセスであるバリューチェーンにおいて、スムーズな流れが妨げられている箇所のことです。

新ビジョンではお客様が認識している課題だけではなく、お客様の仕事を注意深く観察することで、「お客様が気づいていない課題」を見つけに行く、というとても難しい領域にもチャレンジします。

# 価値の提供方法 モノづくりにとどまらない価値づくり

ブラザーにとって“モノづくり”は原点であり、その強みを活用しながら、デジタル技術の活用などの“コト”を強化し、お客様への提供価値の幅を広げ、ボトルネックを解消する



さらに、モノづくりにとどまらない、価値提供を行っていきます。

ブラザーはモノづくりを中心として価値を提供してきた会社ですが、今後は、モノづくりで培った強みを生かしながら、デジタル技術の活用など、“コト”の提供もさらに強化していくことで、価値提供の輪を広げ、お客様のボトルネック解消に貢献していきます。

## 注力領域

### ・産業用領域のかけがえのないパートナーになる

産業用途でブラザーの強みが活きる領域において、  
生産性の向上に加え働く人々や地球環境の課題を解決することで、  
ベストパートナーとしての信頼を確かなものにします。

### ・プリンティングのオンリーワンを極め、 次を切り拓く

オフィスワークやプリンティングの意味合いが大きく変わる中であっても、  
働く人々の期待に応え続けるとともに、  
これまでの事業の枠を超えて新たな柱を築きます。

続いて、2030年度までの注力領域についてご説明します。

産業用領域でのかけがえのないパートナーになること、  
また、プリンティングでのオンリーワンを極め、次を切り拓いていくことを、目指します。



## ・ 産業用領域のかけがえのないパートナーになる

産業用途でブラザーの強みが活きる領域において、生産性の向上に加え働く人々や地球環境の課題を解決することで、ベストパートナーとしての信頼を確かなものにします。



\*ファクトリー・オートメーション

まずは、産業用領域についてです。

ブラザーでは、マシナリー・FA、産業用印刷などの産業用途向けのビジネスを展開しています。特にブラザーの強みが活きる領域において、生産性の向上と、働く人々や、地球環境に関わる課題を解決し、お客様にとってのベストパートナーとしての信頼を確かなものにしていくことを目指します。

## ・プリンティングのオンリーワンを極め、次を切り拓く

オフィスワークやプリンティングの意味合いが大きく変わる中であっても、働く人々の期待に応え続けるとともに、これまでの事業の枠を超えて新たな柱を築きます。

### 領域

### 事業環境の変化と社会課題

レーザー・  
インクジェット  
プリンター/MFC

ラベルプリンター  
モバイルプリンター

周辺サービス・  
ソリューション

紙離れ  
在宅・リモート  
新商流  
デジタル化

CO<sub>2</sub>排出削減  
資源循環



次を切り拓く

オンリーワン・勝ち残り

続いて、プリンティングについてです。

リモートワークの拡大や、デジタル化などにより、オフィスワークや、プリンティングビジネスを取り巻く環境が大きく変わる中においても、人々の期待に応え続けるための製品やサービスを提供し続けてまいります。また、これまでの事業の枠を超えて新たな柱を築き、プリンター業界におけるオンリーワンの存在として、お客様に価値を提供していきます。

ブラザーグループは、110年以上にわたり  
“At your side.”の精神でお客様と向き合い、自らを変革してきました。

ブラザーはこれからも、社会の発展と地球の未来に貢献し、  
より多くのお客様の幸せに貢献できるよう、変化し続けていきます。



以上が、新しいブラザーグループのビジョン「At your side 2030（ニーマルサンマル）」のご説明です。

## ブラザーの環境への取り組み

ブラザーが企業活動を続けていくうえで、地球環境への責任を果たすことは大変重要なことだと考えております。これから先は、ブラザーグループの環境への取り組みについてご説明いたします。

## 環境に配慮した製品および企業活動を実施

### 環境配慮製品の創出



- ・各国環境ラベル\*<sup>1</sup>の積極的な取得
- ・製品の省電力化
- ・トナーカートリッジの回収・リサイクル

\*<sup>1</sup>ブルーエンジェル（ドイツ）、ノルディックスワン（北欧5カ国）、エコマーク（日本）など

### 世界の環境法規制と社会動向への対応



法規制に関するお取引先への説明会

- ・ISO14001\*<sup>2</sup>に基づいた環境活動の推進
- ・「REACH規制\*<sup>3</sup>」「RoHS指令\*<sup>4</sup>」などの順守
- ・化学物質管理体制の確立

\*<sup>2</sup>製品の製造やサービスの提供など、自社の活動による環境への負荷を最小限にするように定めた国際規格

\*<sup>3</sup>化学物質の総合的な登録、評価、認可、制限に関するEUの制度

\*<sup>4</sup>電気・電子機器における特定有害物質の使用制限に関するEUの法律

ブラザーグループでは以前より、世界各国の環境ラベルの積極的な取得、製品の省電力化に加え、トナーカートリッジの回収・リサイクルなど、環境に配慮した製品および事業活動を行ってきました。

また、環境への負荷を最小限にするように定めた国際規格ISO14001に基づく環境活動の推進はもちろんのこと、化学物質や有害物質に関するEUの制度、法律であるREACH（リーチ）規制、RoHS（ロース）指令の順守をはじめとした、化学物質管理体制の構築も進めてきました。

## 環境に関する社会貢献活動、コミュニケーションを推進

### 世界各地での環境社会貢献活動の実施



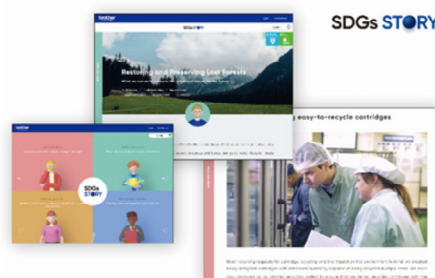
中国・砂漠化防止の緑化活動



タイ・マングローブ林再生活動

生物多様性保全を意識した活動をグローバルに展開

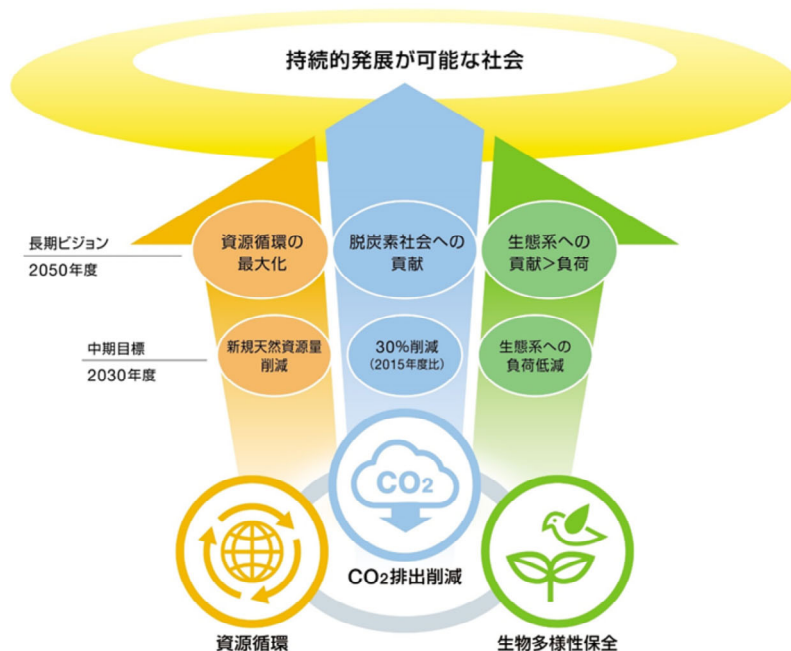
### 環境コミュニケーションの推進



- ・ 自社Webサイト“SDGs STORY”を通じた社外への情報発信
- ・ 従業員に対する環境教育の実施



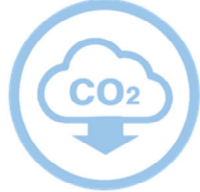
また、生物多様性保全を意識した、グローバルでの環境社会貢献活動の実施や、自社ウェブサイト“SDGs STORY”を通じた社外への情報発信、従業員に対する環境教育の実施など、環境コミュニケーションも推進しています。

2018年、持続的発展が可能な社会の実現に向けて、  
CO<sub>2</sub>排出削減、資源循環、生物多様性保全の3つの項目で2050年度までの目標を提示



さらなる活動の加速化を目指して、持続的発展が可能な社会の実現に向けた環境目標「ブラザーグループ 環境ビジョン2050」を2018年に策定しました。CO<sub>2</sub>排出削減、資源循環、生物多様性保全の3つの項目で、2050年度までの目標と2030年度までの中期目標を掲げ、活動をすすめています。

## 2030年度のCO<sub>2</sub>排出削減目標は前倒して達成

SBT認定を取得	TCFDの提言に賛同	CO <sub>2</sub> 排出削減目標達成
 <p><b>2018年にCO<sub>2</sub>排出削減目標が、Science Based Targets イニシアチブの認定を取得</b></p>	 <p><b>2020年に気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の提言への賛同を表明し、TCFDの提言に基づく情報開示を実施</b></p>	 <p><b>スコープ1、2において、2030年度目標で掲げた2015年度比30%削減を前倒して達成</b></p>

2018年以降の具体的な取り組みについてご紹介いたします。

2018年には、ブラザーグループ環境ビジョンで定めたCO<sub>2</sub>排出削減目標値が、SBT（サイエンス・ベースド・ターゲット・イニシアチブ）の認定を取得しました。SBTとは、温室効果ガス排出削減目標のことで、パリ協定が求める水準と整合した場合に認定が得られるものです。

また、2020年には、気候変動に関する国際的な枠組みであるTCFD、気候関連財務情報開示タスクフォースの提言への賛同を表明し、シナリオ分析の結果を公表しています。そのCO<sub>2</sub>排出削減目標については、2030年度中期目標で掲げた「スコープ1、2において2015年度比で30%削減する」という目標を既に、前倒して達成しています。

※ご参考：TCFDの提言に基づいたシナリオ分析の結果は、こちらからご覧いただけます。

<https://global.brother/ja/sustainability/eco/cc>



## 環境ビジョン2050の改定

2030年度までの中期目標で掲げていた スコープ1、2におけるCO<sub>2</sub>の排出削減目標は達成しましたが、さらなる地球環境への取り組みの強化を目指して、ブラザーグループ 環境ビジョン2050（ノーマルゴール）のCO<sub>2</sub>排出目標を見直すこととしました。

# 2050年にあらゆる事業活動の カーボンニュートラルを目指す

CO<sub>2</sub>排出削減目標：2030年にスコープ1、2で2015年度比65%削減、  
2050年にあらゆる事業活動のカーボンニュートラルとバリューチェーン全体の  
CO<sub>2</sub>排出最小化を目指す

	2030年目標	2050年ビジョン
<b>現行 CO<sub>2</sub>削減目標</b>	[スコープ1*1,2*2] 30%削減 [スコープ3*3(カテゴリー 1,11,12*4)] 30%削減	あらゆる事業活動でバリューチェーン全体のCO <sub>2</sub> 排出削減に前向きに取り組み、世界が目指す脱炭素社会の形成に貢献している。
<b>改定後 CO<sub>2</sub>削減目標</b>	[スコープ1*1,2*2] <b>65%削減</b> [スコープ3*3(カテゴリー 1,11,12*4)] 30%削減	<b>あらゆる事業活動のカーボンニュートラル*5とバリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出最小化を目指し、脱炭素社会の形成に貢献している。</b>

- \*1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出  
\*2：他者から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出  
\*3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他者の排出）  
\*4：製品の部材調達時、製品使用時、製品廃棄時のCO<sub>2</sub>排出量が削減対象  
\*5：プラザグループから排出するCO<sub>2</sub>を全体としてゼロにする

赤字部分が以前からの変更点です。

2030年にスコープ1,2において、2015年度比で65%削減し、

2050年のカーボンニュートラルと、バリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出最小化を目指します。

## ■ 世界各地のブラザーグループ拠点でカーボンニュートラル達成に向けた活動を推進



- ・ 省エネ活動の推進
- ・ 太陽光パネルの設置を中心とした創エネ活動
- ・ CO<sub>2</sub>フリー電力\*の購入 など

本社地区では、2026年度中の  
カーボンニュートラルを目指す



\*発電する際にCO<sub>2</sub>を出さない電力のこと

カーボンニュートラル実現に向けた具体的な取り組み、環境分野への投資についてご説明します。

まずは工場をはじめとした世界各地のブラザーグループの拠点において、省エネ活動の推進に加え、太陽光パネル設置を中心とした創エネ活動により、CO<sub>2</sub>排出量を削減します。さらに、発電する際にCO<sub>2</sub>を出さないCO<sub>2</sub>フリー電力を購入するなどし、カーボンニュートラルを実現していきます。

この活動の一環として、本社地区（名古屋市瑞穂区）においては、2020年2月のプレスリリースでお知らせ済みの新オフィスビルを環境配慮型のビルとするほか、太陽光パネル設置による創エネ活動の推進なども進め、2026年度中にカーボンニュートラルを達成する予定です。

※ご参考：2020年2月26日（水）ニュースリリース「新社屋建設について」

<https://www.brother.co.jp/news/2020/200226mizuho/index.aspx>

■ カーボンニュートラル達成を会社の優先課題としてさまざまな活動を強力に推進

サステナビリティ分野への  
投資を行うファンドに出資



サステナビリティ分野やDXなどのデジタル分野を投資分野に含むベンチャーファンド「WiL Ventures III, L.P.」に出資

水素利活用に関する  
取り組みへの貢献



ゼロカーボンシティを目指す福島県浪江町において、水素活用社会の実現に向け、水素輸送システムの実証実験を実施

気候変動に対応する  
部門を新設

気候変動対応戦略部

10月1日に気候変動対応をグローバルに戦略的に推進する専任部門として「気候変動対応戦略部」を新設

また、サステナビリティ分野への投資を行う米国のファンドへの出資を決めました。そして、2050年のカーボンニュートラルを目指す、“ゼロカーボンシティ”福島県浪江町では、水素活用社会の実現に向けた水素輸送システムの実証実験を進めています。

こうしたさまざまな活動を推進していくために、10月1日には気候変動に対応する専任の部門として「気候変動対応戦略部」を新設しました。

The image shows the Brother logo in a bold, blue, lowercase sans-serif font. Below the main word 'brother' is the tagline 'at your side' in a smaller, blue, lowercase sans-serif font. The entire logo is centered within a large, empty rectangular frame that has a thin black border.

brother  
at your side

以上で、ブラザーの新ビジョンおよび環境ビジョンに関する説明を終わります。

ブラザーはこれからも“*At your side.*”の精神でお客様と向き合い、人と社会の持続的な発展を実現し、地球環境への責任を果たすことで、よりよい未来に貢献していきます。